

こころの診療科

こころの診療科は、落ち着きがない、友達とうまく遊べない、勉強が嫌い、学校に行けない、食欲がない、夜眠れない、イライラしていてすぐにカッとなる、などで困っている子どもを診察する児童精神科です。

こころの診療科で診察することが多い疾患

・神経症

子どもはストレスなどが原因で、体の調子をくずしたり、気分が落ち着かなくなったり、不安が高まったりすることがあります。視力や聴力の低下を訴えることもあります。例えば、ストレスを受けている時におなか痛くなったり頭痛くなったりする子どもがいるわけです。こうした場合、実際に体の病気があるわけではありませんが、だからといって嘘をついているわけではありません。本当に痛みを感じているのです。きちんと原因のストレスを評価して対応することが大切です。

・うつ病

子どもでもうつ病になることがあります。やる気がでない、いつもだるく感じる、食欲がなくなる、眠れなくなる、などがうつ病の症状ですが、子どものうつ病ではこれらに加えてイライラしてカッとなりやすくなる、ということがあります。原因となるストレスの対応をするとともに薬物療法が必要な場合もあります。

・軽度発達障害

学校教育などで特別支援が必要とされている軽度発達障害には注意欠陥／多動性障害、高機能自閉症、学習障害があります。こころの診療科では軽度発達障害の診断や支援も行っています。

#1) ADHD(注意欠陥／多動性障害)

ADHDには大きく分けて不注意による症状と多動・衝動性による症状があります。不注意による症状には忘れ物が多い、気が散りやすい、何か言われてもすぐに忘れてしまうなどがあり、多動・衝動性による症状はじっと座れない、順番を待てない、カッとなりやすいなどです。脳の中の注意を制御する機能の障害が原因です。ADHDは生まれつきのものです。しつけが悪かったから子どもがADHDになるというわけではありません。

#2) 自閉症

①雰囲気を読むことができずに、周囲に合わせた行動が取れない(社会性の障害)、②言葉の発達に遅れがあったり、言葉を適切に使うことができない(コミュニケーションの障害)、③同じことを繰り返すのを好む反面、突然の変化が苦手です。パニックを起こしやすい(想像力の障害とこだわり)の三つの障害がある場合、自閉症と診断します。アスペルガー症候群や高機能自閉症もこの中に含まれます。

#3) 学習障害

知能に問題はないにもかかわらず「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」、「計算する」、「推論する」ができない障害です。心理検査で認知機能のばらつきなどを調べ、得意な認知機能を生かした学習指導ができるようにしていきます。

そのほかチック障害、社会不安障害、統合失調症などの診察もしています。

診断・治療

・こころの診療科では、受診したお子さんの症状の医学的評価や、生活環境でのストレスの検討などをします。その後、お薬を処方したり、御家族と対応方法を話し合ったり、療育機関や学校と連携したりしていきます。こうした治療や他機関との連携を医師、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、看護師で行っています。

・診察の予約が入りましたら御家族にアンケートを送付して、お子さんの生育歴や行動について記入していただいています。スタッフが事前にお子さんの状態を把握することで診察をスムーズにし、負担を少なくしたいと考えています。

- ・予約制になっています。
- ・対象年齢は15才までです。
- ・外来診察のみです。



Doctor MESSAGE ドクターメッセージ

子どもが最大限に成長出来るように、よりよい援助をしていきたいと思いを。

こころの診療科を受診する理由は様々ですが、どの子も多かれ少なかれ友達関係や学業面で困難を抱えています。こうした困難をずっと引きずったまましていると、その子の心理的な成長が不十分になることがあります。10才の時に100の力があつた子どもが順調に成長したら、大人になった時にも100の力を持っているはずですが、友達関係や学業面での困難を抱えたまままで力の伸びに支障をきたしてしまうと、大人になった時に60や70の力しか身に付いていないかもしれません。

こころの診療科では、受診した子どもたちが抱えている困難を心理、発達、家族や友達との関係、学校での様子などから評価、診断をしていきます。薬物療法、カウンセリングはもちろんのこと、教育機関、福祉機関、療育機関などとも連携して、子どもがのびのびと成長できるように援助していきたいと考えています。



こころの診療科/宮崎 仁